

平成29年度全国学力・学習状況調査 結果の概要

女川町立女川小学校

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準を維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 改善の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2 調査実施日 平成29年4月19日(火)

3 対象学年 女川小学校第6学年児童 32名 当日実施児童 29名 後日実施児童 1名

4 調査事項及び内容

- (1) 教科に関する調査：国語，算数
- (2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

5 本校と県・全国との比較

	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B
宮城県	同等の正答率であるがわずかに下回っている。▼	同等の正答率であるがわずかに上回っている。△	5ポイント程度下回っている。▼	5ポイント以上下回っている。▼
全国	同等の正答率であるがわずかに下回っている。▼	数ポイント上回っている。△	5ポイント以上下回っている。▼	5ポイント程度下回っている。▼

○国語 A は、県及び全国平均正答率と同等程度。国語 B は、若干上回った。算数は A・B 問題とも、県及び全国平均正答率を下回る結果となった。

6 学力調査結果から

(1) 国語の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・A・B問題とも、無回答率が県・全国平均よりもかなり少なく、あきらめずに課題に向かう姿勢が見られる。
- ・A問題の俳句の情景を捉える問題では、2題とも全国平均より上回った。俳句をつくる活動が実を結んでいる。
- ・B問題では、昨年度よりも10ポイント以上上回っており、授業改善の成果が実を結んでいる。

(課題)

- ・「話すこと・聞くこと」領域では、話し手の考えの共通点や相違点を整理することが苦手である。しかし、目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の構成を工夫しながら、場に応じた適切な言葉遣いで話す問題については、向上が見られた。
- ・「書くこと」領域では、目的や意図に応じて、グラフや表を基に、書く条件が複数必要な場合、すべてを満たして自分の考えを書く力が不十分である。
- ・「読むこと」領域では、物語に登場する人物についての描写や心情、人物相互の関係を捉えることに課題がある。
- ・「言語事項」では、全員正解の漢字の読みもあり、昨年度と比較すると正しく書く・読むことができているが、書くことに関しては、苦手としている児童もいる。

②指導改善のポイント

- ・「話すこと・聞くこと」では、普段の話す聞く領域の授業を充実させることはもちろんのこと、普段の授業で教師・子供の話の要点を考えながら注意深く聞かせることが重要である。
- ・「書くこと」では、国語の学習だけではなく、算数や社会などの学習で、資料を読み取る力を身

に付けることが大切である。作文の問題については、週に一度程度、家庭学習で作文の課題を与えるなどして、作文力を高めることが必要である。その際、毎回ではなくてもテーマを与えることも考えられる。

- ・「読むこと」では、授業で、登場人物や筆者の心情についてノートに書く時間を十分設ける。また、読書量を増やすようにする。
- ・漢字については、小テストをこまめに行い、子供に自分の状態を把握させ、練習させる。また、文章の意味を捉えて、ひらがなを漢字に書くことも行う。

(2) 算数の成果・課題と指導改善のポイント

①調査結果から明らかになった成果・課題等

(成果)

- ・A・B問題とも、無回答率が県・全国平均よりも少なく、国語同様、あきらめずに課題に向かう姿勢が見られる。

(課題)

- ・「数と計算」領域の、四則計算では、計算の決まりを理解していない子供が多い。また、数直線を正しく書ける子供が少ない。
- ・「量と測定」領域では、面積や平均、任意単位を苦手としている子供が多い。
- ・「図形」領域では、正五角形や、直方体の面と面の位置関係など知識・理解についての設問に課題がある。
- ・「数量関係」領域では、割合を苦手としている子供が多い。また、グラフから必要な情報を読み取り答えることも苦手としている。

②指導改善のポイント

- ・「数と計算」では、計算の仕方を身に付けさせるとともに、見積もりを行う習慣を身に付けさせる。また、授業で教師が一方的に数直線や線分図を提示するのではなく、子供と一緒に書き、子供が数直線や線分図を使えるようにする。
- ・「量と測定」では、図や数直線を使って考えられるようにする必要がある。
- ・「図形」では、性質や決まりなど自らの言葉でまとめさせるなど、授業のまとめの仕方を工夫していく。
- ・「数量関係」では、日常の場面を問題に取り入れ、イメージを持たせて問題に取り組みせたり、必要感を持たせたりする。また、グラフの見方をしっかりと理解できるよう繰り返し指導する。

7 生活習慣や学習環境に関する調査から

<生活習慣・意識調査について>

- 学校で友達に会うことを楽しみにしている児童が全員である。
- いじめに対して、いけないことと思っている児童が全員である。
- ▲起床、就寝について、規則正しい生活習慣が身に付いている児童の割合が県・全国よりも低い。
- ▲ものごとをやり遂げて得る達成感や難しいことに挑戦する気持ちが、県・全国よりも低い。
- ▲将来の夢や目標を持っている児童が、県・全国よりも低い。

<学習を阻害する要因について>

- ▲テレビゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったメール、インターネット、またテレビ視聴時間が県・全国平均よりも長い。また、テレビゲームやインターネット等、決まりを家族と決めていない児童が多い。

<学力向上を促進する要因について>

- ▲家庭学習の時間について、平日、土日とも県・全国と比較すると短い。
- ▲家庭で、予習・復習を全く行わない児童が県・全国よりも多い。
- ▲読書をする時間が10分以下、全くしない児童が多い。

<授業に関する調査について>

- ▲国語や算数等の学習について、意欲的ではない児童が県・全国と比較すると多い。
- ▲発表したり、考えを書いたりすることを苦手としている児童が県・全国と比較すると多い。

8 今後の取組

(1) 「基礎的・基本的な知識・技能」の確実な定着を図る授業等の改善

- ① 児童にとって「わかる・できる・楽しい」授業づくり
 - ・宮城県教育委員会から示されている「5つの提言」を取り入れることにより、「自己有用感の形成」や「教科指導の充実」、「家庭学習の習慣化」を図る。
 - ・宮城県教育委員会から示されている「算数・数学ステップアップ5」を取り入れ、より効果的な学習を行うために、意欲を持てる課題の提示方法や学びが深まる自力解決、集団解決の方法について校内で研究、実践していく。
 - ・デジタル教科書や実物投影機を活用し、拡大して課題や資料を提示することで視覚的に分かりやすい授業を行う。また、タブレットを活用し、児童の意見を集約したり、アプリを通して児童個々の習熟の時間を効果的に展開したりする。
- ② 個に応じた習熟度別学習の充実
 - ・放課後に「スキルタイム」を設定し、支援を必要とする児童の学習支援を行い、学習内容を確実に習得させる。
 - ・第5学年を対象に「ロングスキルタイム」を設定し、学年を習熟度別に4クラスに分け、実態に応じて、基礎問題から発展問題に取り組ませる。
- ③ 「女川スタンダード」をもとにした学習規律の徹底
 - ・女川スタンダードをもとに、継続的な指導を通して、基本的な学習習慣の定着を図る。
- ④ 漢字検定、算数検定の積極的な活用
 - ・漢字検定や算数検定を、児童の学力を定着させる取組に位置付け、積極的に活用していく。

(2) 「活用する力」の育成を図る授業の充実

- ① 思考力を高めるための「書く活動」の充実
 - ・児童の思考力を高めるため、どの教科においても自分の考えを書く活動を積極的に取り入れる。また、自分の考えを表現する力の素地を養うため、日記・作文を継続的に書かせる。さらに、読書や家読（うちどく）を推奨し、語彙力、表現力を育てていく。
- ② 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した単元構成の工夫
 - ・単元を構成する際に、単元全体を通して、「主体的・対話的で深い学び」を達成できるように、指導計画を工夫する。

(3) 家庭学習習慣の定着

- ① 基本的な生活習慣の確立と学習時間の確保
 - ・「はやね はやおき 朝ごはん」を合い言葉として、家庭への啓発を継続し、基本的な生活習慣を身に付けさせる。
 - ・生活習慣チェックシートを活用し生活習慣の改善を図る。また、児童会を主体として、スマートフォンや携帯電話、ゲームやインターネットに触れる際のきまりについて考えさせ、家庭にも啓発していく。
- ② 授業と連動させた課題の工夫
 - ・授業の学習内容の理解度を高めるために、家庭学習の課題を「予習型」「復習型」「発展・補充型」の3つのタイプに分け内容を工夫する。

(4) 女川中学校、女川向学館、地域との連携強化

- ① 中学校との連携
 - ・小中学校の教員が各校の授業参観を通して、「指導（授業）内容」「(学年・年齢・教科の特性に応じた)指導の工夫」等について学び合う。
- ② 女川向学館との連携
 - ・女川向学館と連携し、少人数指導やロングスキルタイムの指導に御協力いただき、児童の実態に合わせたきめ細やかな指導を行う。
- ③ 地域の人財（じんざい）活用
 - ・生涯学習課で作成した「女川小学校版人材バンク」や「出前授業」を活用することにより、地域の教育力を生かす。